

特集  
Preconception Care  
—健やかな母子となるための最新トピックス—

女性の健康とプレコンセプション(2)

母性内科  
—国立成育医療研究センターの場合—

金子 佳代子/荒田 尚子\*

Summary

プレコンセプションケアとは妊娠前ヘルスケアであり、プレコンセプションケアを実践することで妊娠転帰の改善が期待できる。

プレコンセプションケアは女性だけではなくパートナーや家族とともに行うことでさらに効果が期待できる。

Key words

プレコンセプションケア

妊娠前管理

はじめに

公衆衛生や医療の進歩に伴い、妊産婦死亡率・乳児死亡率は、特に先進国において劇的に低下した。しかし先天異常や児の未熟性・母体合併症に伴う新生児死亡は減少していない。米国における新生児死亡の原因は、1980年代より先天異常が最も多く、2000年代になるとこれに次いで早産・低出生体重児、そして母体合併症の増加が挙げられている<sup>1)</sup>。これらを改善するための介入は、“妊娠したらすぐ”というのでは遅い。なぜなら器官形成期は妊娠の極めて初期からであるし、米国の調査ではあるが、50%以上の妊娠が“予定外”という報告<sup>2)</sup>もあるからである。このような背景から、米国では2006年に米国疾病予防管理センター (centers for disease control and prevention ; CDC) が、また世界的には2012年に世界保健機構(world health organization ; WHO) が、妊娠前からの母体健康管理や生活習慣改善を目的として、プレコンセプションケア(preconception care)を提唱した。

このような理念のもと、当センターにおいても、2015年11月よりプレコンセプションケアセンターを立ち上げ、すべてのカップルに対する妊娠前ヘルスケアカウンセリングとしての“プレコンセプション検診”，および基礎疾患をもつ女性または過去に産科合併症既往歴をもつカップルに対する個別相談としての“プレコンセプション相談外来”を開設している。

本稿では、主に“プレコンセプション検診”のカ

Kayoko Kaneko, Naoko Arata

国立成育医療研究センター周産期・母性診療センター  
母性内科，診療部長\*